

「いつでも、どこでも、何度でも」

PCR検査を！

武漢型コロナウイルスによる第一の波、そして欧米型ウイルスによる第二段と日本の新型コロナウイルス感染は推移し、今(7/30)“東京・埼玉型のコロナウイルス”が東京新宿周辺でのエピセンター(発生源)として拡大(児玉教授)。



7月31日には東京での新感染者は463人、千葉県も35人、全国で1570人になり、児玉さんが国会で「面的に全員のPCR検査をして制圧しなければ大変なことになります」と警告した(7/16)のに政府・東京が対応しない結果が現れ始めています。

無症状の感染者がウイルスを拡散している事実から、拡大し始めているその地域だけでも全員検査(抗体+PCR検査)をして陽性の無症者を隔離することで感染拡大を抑制すべきと言う児玉さんの指摘を世田谷区は実践し始めています。

世田谷の保坂区長は7/28「児玉教授のアドバイスを受け“いつでも、どこでも、何度でも”PCR検査を受けられる体制・世田谷モデルを検討している」と表明。

「人と接する特定の職業(病院・介護施設・学校・美容院など)の従事者に対して病状の有無にかかわらず一定期間ごとに検査を行い、罹患者については速やかに隔離・治療を行うことで安心して仕事が出来、サービスを受けられるようにする」とPCR検査の拡大・拡充=行政検査+社会的検査でコロナを制圧していこうとしています。

世田谷区では現在300件/日ほどの検査体制があるが当面これを3000件/日に拡大したいとの事。財源はふるさと納税・クラウドファンディング・寄付などを考えているとのこと。

今年1月新型コロナウイルス感染者の発生以来日本は世界でもっともPCR検査をしない国になってしまいました。その結果3月には永寿病院での院内感染200名以上、千葉県東庄町の知的障害者支援施設「北総育成園」での施設内感染で100名以上の集団感染。そして鎌ヶ谷市でも住居型有料老人ホーム「アヴィラージュ新鎌ヶ谷」にてクラスター8人の感染者(7/31)が。



新型コロナウイルス感染者が発生したことが判明した後でやっと施設内の検査をしますが、事前に無症状状態ではどこも“PCR検査”をしないのです。その結果の集団感染だと思われます。

コロナを制圧した中国武漢でも、韓国でも、欧米でも“徹底したPCR検査・隔離・治療・追跡”で成功している。和歌山県でも徹底したPCR検査で院内感染の拡大を阻止できた成功例があるのにこれらに学ばない日本政府。“軽症者・無症状感染者の存在を把握しようとせず、病症が発症してからやっと検査をし、ただ重症者を治療すること、クラスターを抑える事だけに集中する”=「日本モデル」にしがみついているのは何故？

《各国の制圧例を見てみましょう。》

ニューヨーク州知事クオモ知事は PCR 検査・抗体検査を徹底的に実施(1日6万件)。“いたるところに検査場があり居住者であれば誰でも無料で回数制限なく検査を受けられる。”“更に特定の職種の人たちに検査を義務付ける(美容師は2週間に1度必ず PCR 検査を義務付け)ことによって感染症阻止を実践しています。ピーク時1日800人の死者を出したが7/11には新型コロナウイルス感染死者ゼロ(陽性率も2%未満)になっている。

中国では昨年暮れの発症時の対応に問題があったが、今年2020年1/19鍾南山医師が対策チームのリーダーになって武漢に入り“都市封鎖”と同時に重症者用専門病院「火神山病院」「雷神山病院」を10日で建設。軽症者用として方舱病院を増設したり体育館を使ったりして対応。しかも全国から医療関係者4万人を一挙に武漢に動員したので3/14には制圧に成功しています。



鍾南山医師

昨年いち早く新型肺炎の可能性を指摘した李医師は、「デマを流すな」と警察に取り調べられたりして訓戒処分を受けたが今では「事前諸葛亮」と称賛されているとの事。

韓国では1月の段階で文大統領の指示で民間企業が PCR 検査機の開発をしたので大量の PCR 検査体制がいち早く出来ました。テグの宗教関係者の大量感染に対しては、徹底した PCR 検査と各地から医師・看護師が入り、ベットが送り込まれ主体的な市民と政府との協治で制圧した。感染者に対しては重症と軽症と分けて、軽症者に対しては“地域の生活治療センター”に医師・看護師を常駐させ病院と治療センターとの連携で対応。スマホなどで感染者の移動継続の把握による感染拡大の抑制によってコロナ対策が成功しました。徹底的な早期の PCR 検査-隔離-治療-追跡によるコロナ対策がなされたのです。

世田谷区は「国・都がやらないので私たちがやる」と地方から動き始めました。

鎌ヶ谷市も感染者への PCR 検査の拡充・拡大と同時に、感染リスクの高い医療機関、介護・障害者施設、保育所などエッセンシャルワークの人々に事前に無症状の段階でも PCR 検査をしていく体制を作ることを検討すべきです。

PCR 検査を大量に自動的に出来る機器が隣の松戸市にある企業によって開発されています。フランス・イタリアで活躍しフランス政府から感謝状をいただいているとの事です。又、多くの研究機関に PCR 検査機があることが山中博士や児玉教授からも指摘されています。すべての資源を動員して新型コロナウイルス感染症を制圧していきましょう。

“発熱外来—PCR 検査—隔離(療養)—治療—追跡”の感染症対応の医療の仕様を一日も早く具体化すべきです。市民の生命・健康・生活を守るのが自治体の役割です。鎌ヶ谷市の力強い一歩を要請します。

ちなみに千葉県は8/1から第二フェーズ対応として514床の病症と700室の宿泊療養場所を確保とのこと。すでに30億円の予算のついている中症状対応の臨時医療施設1000床は準備段階。確実に計画を実現してほしいものです。

「民主主義と自治そして平和主義」ふじしろ政夫 047-445-9144

*活動報告HPに掲載「いい鎌ヶ谷ふじしろ政夫」でアクセスできます。